

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第6号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第6号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	22.1	0.5	27.6	26.8	-0.8	16.7	18.2	1.5	21.8	56.0	257	25.9	13.8	53
	2	22.3	24.6	2.3	27.8	31.2	3.4	17.8	19.1	1.3	28.6	0.0	0	23.0	45.6	198
	3	22.8			27.9			18.7			40.9			21.2		
	4	23.3			27.9			19.7			58.6			18.8		
	5	23.9			28.1			20.6			74.3			15.4		
	6	24.6			28.4			21.6			84.4			14.1		

○6月2半旬の平均気温は、平年に比べて2℃ほど高く推移した。また、梅雨の晴れ間となり平年に比べて多照傾向となった。

≪福岡管区気象台の1か月天気予報（6月10日発表）（予報期間 6月12日から7月11日まで）

期間のはじめを中心に暖かい空気に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の気温は、平年並か高いでしょう。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みでしょう。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月12日）

項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ	本 年 値	67.1	680	12.2	38.3	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は平年に比べやや高く、茎数は多い。 ・主稈出葉数は平年並み。葉色は平年よりやや濃い。 ・幼穂長 5～10mm 程度 ・幼穂形成始期 6月7日頃
	平 年 値	65.4	600	12.2	37.0	
	平年比（差）	103	113	±0.0	+1.3	

※ 平年値は、H23～R2年度の平均値

※ 耕種概要は稲作情報NO1参照

（管内の生育状況）

- 現在、生育ステージは、幼穂形成期～穂孕み期を迎えている。
- 生育が旺盛で葉色が濃い圃場では、葉いもち病の病斑（停止型）を確認した。
- 強い中干し後、急に湛水状態に移行した圃場において、根痛みによる葉先の黄化を確認している。（かなり土壌表面が白乾した圃場にて確認している）

《表2 管内におけるウンカ類の払い落とし調査結果》

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
6月12日	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
4月5日移植	96	0	3	0	41	0	コシヒカリ(白石町) ※箱施薬剤無施用

※25 株払落とし総数を計上している。

②葉いもち病

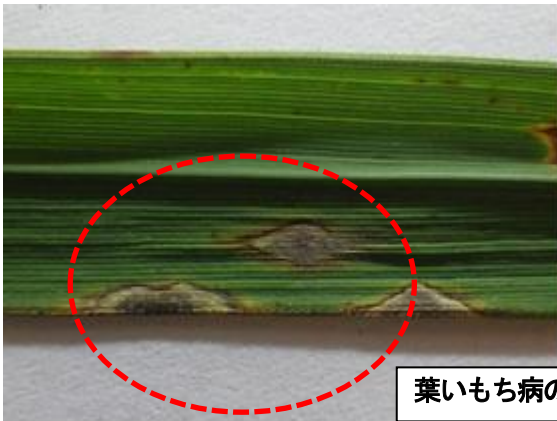
- ・圃場にある『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。
- ・6月1半旬の天候は、じめじめとした曇天で推移したことで、生育が旺盛で葉色が濃い圃場では、葉いもち病の病斑（褐点型・停止型）を確認している。
- ※6月3日には準好適条件となっている。今後曇天が続く場合は、「いもち病」に要注意である。

《表3 BLASAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況》 県防除センターHP より

6月

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
白石	-	-	4	-	-	-	-	-		
伊万里	-	-	-	-	-	-	-	-		

- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は20℃未満)
 - 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は25℃以上)
 - 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温は15～25℃の範囲外)
 - 4: 準好適条件(湿潤時間は湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- : 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 - : 好適条件の出現なし
 - ?: 判定不能



葉いもち病の病斑



置き苗に葉いもち病斑

③斑点米カメムシ

- ・斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を水稻の出穂15日前(6月20日)までに終わらせる。特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから圃場内に発生しているヒエ等の除草も併せて行う。
- 畦畔を100mあたり歩いて3頭いたら、要注意である。

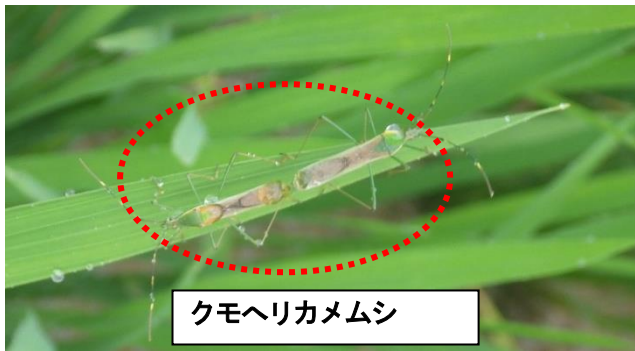


エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

《表4 斑点米カメムシの20回すくい取り調査結果》

6月10日巡回調査

地区	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		ミナミアオカメムシ		アカスジカスミカメ		シラホシカメムシ	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
須古(畦畔)	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0
福富(畦畔)	15	0	1	4	0	0	3	47	0	0



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

4. 今後の管理 (普通期水稻)

《共通》

- ・本年は、出芽期～1葉期にあたる5月末～6月上旬が、日中気温が高く日射量が大きく経過したため、場合によっては出芽不良や出芽後の灌水不足による萎れなどが生じている。
また、被覆資材の除去が遅れたところでは苗質が軟弱徒長ぎみとなっている。
- ・そのため、以下に特に留意する。



- 本年は暖冬の影響を受け、スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) の発生が多いことが懸念される。
発生が多い圃場では、特に移植後1週間は深水にならない様に注意する。
- 本年の麦類は平年より収量が多く、麦わらの量も多い。
麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までに窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用する。
移植後は、ガス抜きによる水管理が重要である。

(1) 「夢しずく」

- ・「夢しずく」は、早いところで6月6日(平坦上部)から始まり、6月12日～16日に移植盛期をむかえる。今後は、移植時期に応じた水管理を徹底する。除草剤は、薬剤の使用基準を守り、処理後7日経過したら浅水管理に移行する。
- ・麦わらすき込みを行った圃場で、「ガスの発生が著しい場合」は、除草剤処理から7日経過したら「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。



手を田んぼに入れると、気泡(ガス)が激しく発生する
⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

(2) 「さがびより」

- ・露棚ができるような、うっぺいした状態の苗では、いもち病斑を確認している。
今後の天候次第では、他の品種でも「いもち病」の発生が懸念されるので、発生が甚だしい場合は、薬剤防除を行う。
- ・「さがびより」は茎数が増えやすい品種であることから、下記のとおり①適正な栽植密度②植え付け本数を守るとともに、植え付け深度（3 cm程度）の適正化に努める。

①栽植密度	50～60株/坪（15～18株/m ² ）
②植え付け本数	3～4本/株

(3) 「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は6月20日以降、「ヒヨクモチ」は6月25日以降に移植する。

5. 台風・大雨対策

- ・台風対策は、水稻の生育ステージによって異なるが、本田移植後（活着期以降）は、強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、必ず深水管理を行う。併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努める。
- ・近年、移植後の集中豪雨による圃場の冠水し、クリーク水が圃場へ逆流したり深水状態が続くと、スクミリンゴカイの被害が拡大する恐れがある。対策としては、用排水の管理をきめ細かく実施するとともに、食害が多い場合はメタアルデヒド剤等で防除する。